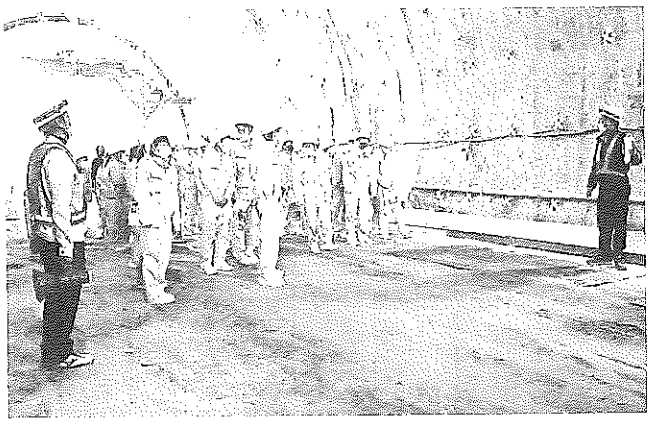
令和 3 年 12 月 3 日（金）
鹿 児 島 建 設 新 聞

肌でスケール体感

鹿工高生が現場見学



トンネルの現場など訪問した生徒＝霧島市の現地

県建設業協会（藤田護会長）は1日、鹿児島工業高校生を対象に現場見学会を行った。建設技術系の2年生40人が参加。訪問した生徒らには、現場を肌で体験する貴重な経験となった。

初めに訪れたのは、南生建設・藤田建設興業・第一建設JVが担当する「道路改築・工事国債西光寺トンネル」。事業概要や施工方法等を県姶良・伊佐地域振興局の伊地知明義技術専門員が教えたほか、工事の流れなどは作業所長の井上薫氏（南生建設）が説明した。

その後、生徒らは延長303mのトンネル内を歩き、そのスケールの大きさを体感。壁面の防水シートに絵や言葉を描くという貴重な経験もでき「何を書こうかな」と楽しそうな笑い声が響いた。

仲林秀一朗さんは「友達の名前を書いた。実際に見学してより土木に興味を持った」と笑みを見せた。

人材育成対策室の福山芳明室長は「コロナ禍においても関係者の協力で実施できている。生徒らには現場を肌で感じてもらい、業界の公共事業により理解を深めてほしい」と話した。

なお、マリンポートかごしまで施工中の3現場も見学した。

令和 3 年 11 月 19 日（金）
鹿 児 島 建 設 新 聞

建協加治木支部

加治木工高現場見学

スケールの大きさ体感

県建設業協会加治木支部（塚田洋一支部長）は16日、加治木工業高校生を対象に現場見学会を実施した。土木科1年生40人（男子39人、女子1人）が大規模な現場を見学して、建設業の役割や魅力に触れた。

見学会は、次代を担う高校生に地元建設業への就職を促進しようと毎年実施。県姶良・伊佐地域振興局建設部から大内田正人技術主幹、吉村公孝技術主査ら、同支部から末重堅司理事（末重建設）、福永和則監事（福永建設）、森園秀人事務局長が同行した。

同日は、広域河川改修・綿打川（平原組）、火山砂防・霧島川（新町組、吉村工業、窪田工務店、西工務店）、道路改築・工事国債西光寺トンネル（南生・藤田・第一JV）、急傾斜地崩壊対策・弥勒（福永建設）などを見学。各現場でバックホウの重機体験や砂防ジオラマを使った土石流の実演、座学で建設業の必要性などを学習。このうち西光寺トンネルでは、そのスケールの大きさを間近で体感。また思い出づくりにと、トンネル壁面の防水シートに名前や絵、言葉を思い思いに描き、生徒らは笑顔を見せていた。

西光寺トンネル現場をバックに写真に納まる生徒ら＝霧島市の現地

引率した藤崎智弘教諭は「コロナの影響で多くの学校行事が中止となってしまった中、生徒が楽しみにしていた見学会。建設業の面白さや大切さを感じ、興味を持ってもらえたら」と述べ、生徒からは「貴重な体験ができ、将来の選択肢が広がった」などと感想を語った。

令和 3 年 11 月 12 日（金）
鹿 児 島 建 設 新 聞

建設業に理解深める

鹿屋工生17人が現場見学

建協鹿屋支部・大隅河川国道

建設業協会鹿屋支部（谷口幸司支部長）と九州地方整備局大隅河川国道事務所（岩男忠明所長）共催による現場見学会が11日、志布志市の現場で開かれた。鹿屋工業高校土木科の1年生17人が参加。建設現場の見学を通じて、建設業の役割などに理解を深めた。

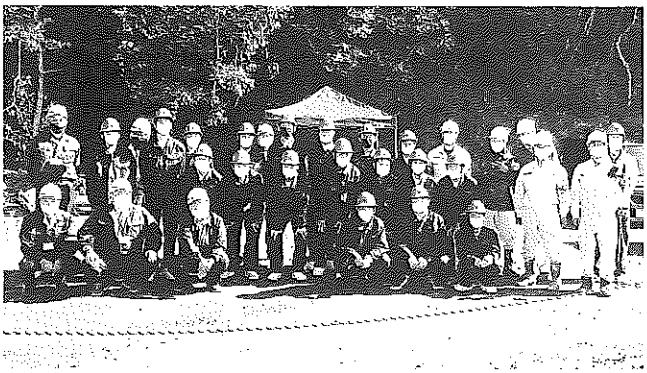
見学会は、地元建設業への就職を促進しようーと毎年実施し、今回で29回目。谷口支部長（肝付土建）と役員、青年部会員らが参加し、志布志市の日南・志布志道路中尾橋下部工（A1）（肝付土建）の現場で実施した。

座学では、原口守監理技術者から工事概要の説明を受けたあと、川原修一現場代理人がドローンで撮影した空撮写真を使って現場の進捗状況などに関して分かりやすく解説。また、同校卒業生の瀬戸口仁さん、大迫慶次郎さん、大山凛久さんの3人がこれまで現場で経験したことなど体験談を語り、自分が携わった工事が誰かの役に立つことのうれしさや、地域住民から感謝されたことなど紹介。厳しい面もあるが工事完了時の達成感の大きさなど身をもって感じたことを後輩たちに向け熱く語った。

現場体験では、ドローン操作やナビ測量など体験。間近に見る現場を前に、建設業の果たす役割や、地域の生活基盤である社会インフラ整備を担う地元建設業の必要性にも理解を深めた。

見学会終了時には、生徒を代表し永吉拓純さんが「今日の体験を今後に生かしていきたい。測量の勉強などに取り組み、地元の企業に就職できるよう頑張っていきたい」と感謝の言葉を述べた。

谷口支部長は、「一人でも多くの卒業生が地元の会社で土木技術者になってもらいたい」と話した。



見学会終了後、記念写真に納まる生徒ら＝志布志市の現地